

9日

北海道障がい者スポーツ大会 フットベースボール競技で熱戦

第55回北海道障がい者スポーツ大会（北海道障がい者スポーツ協会など主催）のフットベースボール競技がスタジアムで行われました。
競技には標茶町や弟子屈町など全道各地から4チーム約50人の選手が参加し、それぞれ優勝をめざして熱戦を繰り広げました。
決勝戦は愛誠会トリニティー（むかわ町）が16対4でフロンティア（白老町・登別市）を制し、優勝に輝きました。



12日

田んぼをのぞいてみよう！ 田んぼの生きもの観察会

厚真町土地改良区主催（室蘭開発建設部、胆振総合振興局）の「田んぼの生きもの観察会」が豊川用水路で行われました。
上厚真小学校（西田直校長）の3年生18人が、夢中になりながらタモ網でドジョウやカエルなどを捕まえ観察していました。また、7日には厚真中央小学校（池田健人校長）の4年生23人も同じ観察会を行いました。



14日

厚真消防団が 北海道操法訓練大会に出場

平成29年度北海道消防操法訓練大会が江別市にある北海道消防学校で開催され、胆振地区代表として厚真消防団が出場しました。
この大会は、消防ポンプなどの機械器具を使用した消火活動の基本技術や動作の正確さ、迅速さなどを競い合うものです。
大会当日は炎天下の中、小型ポンプ操法に5人の団員が出場。指揮者を務めた高橋清吾団員は、「最高のパフォーマンスができました」と感想を述べていました。



19日

鵜川漁協厚真支所北寄部会から ホッキ貝が寄贈

鵜川漁業協同組合厚真支所北寄部会（西館純之会長）からホッキ貝が町学校給食センターに寄贈があり、7月19日に町内のこども園、小中学校の給食のメニューにホッキカレーとして提供されました。
上厚真小学校4年生の教室では、「おかわり！」の声が教室に響き渡っていました。
児童は「ホッキ貝が大きかった」「甘くておいしかった」と話していました。



1日

イオン環境財団が旧ゴルフ場跡地に植樹

町内高丘地区の旧ゴルフ場跡地で、公益財団法人イオン環境財団（岡田卓也理事長）が主催する「イオンの森づくり厚真町植樹」が行われました。
3年計画で進められ最終年度となった今年度の植樹には、町内外の親子連れやマレーシアからの留学生ら約650人が参加し、ハルニレやヤチダモなど7種類5,600本の苗木を植えました。
岡田理事長は「水の確保は非常に重要な課題です。すべての木々が大きく育って森になるように願っています」とあいさつしていました。



1日

厚幌ダム工事現場見学会

厚幌ダム工事現場見学会が、同ダム工事現場事務所で行われ、町内外から52人が参加しました。
当日は、工事関係者からダムの概要や進捗状況の説明を受けた後、長さ516mの堤頂や、貯水後は見ることができなくなるダム底部などを見学しました。
参加者たちは、ダムの大きさや高さ、「台形CSGダム」という日本では3例目の珍しい型式に感心していました。



3日

社会を明るくする運動キャラバン隊が 総理大臣メッセージを伝達

苫小牧地区保護司会（菅原正良会長）が役場を訪れ、宮坂町長に社会を明るくする運動総理大臣メッセージを伝達しました。
当日は、保護司会の会員ら約20人が「社会を明るくする運動」と書かれたタスキをかけて訪問。大井武彦副会長がメッセージを代読し、宮坂町長へ手渡しました。
メッセージでは、犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域の力の推進についてお願いが述べられました。



7日

家庭に花を ガーデニング講習会

町コミュニティ運動推進協議会（山下昌秀会長）主催のガーデニング講習会が表町公園で行われ、23人が参加しました。今年も昨年に引き続き町内の種苗店から梅原智哉さんを講師に招き、講話と寄せ植えの実習を行いました。
参加者は熱心に梅原さんの講話に耳を傾けたり、実習で学んだことを参考にしながらきれいに花を植え込んでいました。





まちなか交流館 しゃべーる 通信

併設する「里工房ほっとす」では、大豆まるごと豆腐を製造

まちなか交流館内の就労支援B型事業所を
現在3人が利用しています。

厚真町まちなか交流館「しゃべーる」には、就労継続支援B型事業所のディワーク「里工房ほっとす」が併設されています。

この事業所は、障害者総合支援法(旧障害者自立支援法)に基づく就労継続支援のための施設で、まちなか交流館の機能の一つとして心身にハンディキャップがあるため、一般の企業などへ就職することが困難な人のための就労の場として、平成27年4月にオープンしました。

現在の利用者は3人で、職業指導員の援助を受けながら、厚真産の大豆を使用した、おからの出ない「大豆まるごと豆腐・雪ほたる」を製造しています。



職員とともに、楽しく豆腐を製造する利用者

B型事業所は、雇用契約がない「非雇用型」で 作業した分の工賃を支給します。

継続支援は、大きく分けて「A型」と「B型」があります。

A型は、雇用契約に基づいて賃金が支払われるのに対して、B型は「非雇用型」と呼ばれ、雇用契約を結ばず働く時間も短時間で、作業も負担の軽いものとなっています。

B型では、賃金は支払われませんが、それに換わって授産的作業の対価として工賃(手間賃)が支払われます。

「ほっとす」の基本額は、時給200円(加算あり)です。なお、厚生労働省が調査した平成24年度の平均工賃は、時給176円です。



B型事業所「ほっとす」で製造している「大豆まるごと豆腐・雪ほたる」のラインナップ

B型事業所を利用できる方

心身にハンディキャップがあり、一般の企業やA型事業所で、雇用契約を結んで働くことが困難な方が対象です。具体的には、次の要件を満たす方です。

- 1、就労経験がある方で、年齢や体力の面で一般企業に雇用されることが困難となった人
- 2、50歳に達している方または障害基礎年金1級の受給者
- 3、上記の1および2に該当しない方で、就労移行支援事業者等によるアセスメントにより、就労面に係る課題等の把握が行われている人

B型事業所についてのお問い合わせは
役場町民福祉課に

ディワーク「里工房ほっとす」の定員は10人となっていますが、現在の利用者は、3人と定員を大きく下回っています。

今後、利用者の増加が見込まれており、将来的には豆腐製造だけでなく、お菓子類の製造やカフェでの接客業務など幅広いニーズに対応できる体制を整えます。

B型事業所については、町民福祉課福祉グループ(☎26-7872)までお問合せください。

24日

箱崎倫子さん(新町)が 剣詩舞コンクール全道大会で優勝

7月16日に札幌市で行われた第8回日本コロムビア全国剣詩舞コンクール北海道地区決選大会の第4部詩舞一般の部で箱崎倫子さん(新町・75歳)が優勝しました。箱崎さんは、聖月流日本吟剣詩舞道会千歳支部に所属。10月に福井県で行われる全国大会への初出場が決まりました。

箱崎さんは「優勝と一緒に練習している仲間のおかげです。全国大会はプレッシャーがかかってくると思いますが、精いっぱい頑張りたいです」と優勝の喜びと全国大会への抱負を語っていました。



24日

アウトメディア宣言！子ども教育委員会

第3回子ども教育委員会が、総合福祉センターで行われました。町内小学校の児童会と中学校生徒会役員の17人が参加。昨年度、同委員会で採択したアウトメディア宣言のアンケート結果を基にアウトメディアの取り組みの充実に向けて意見交流を行いました。

今後の取り組みについて協議され、参加者から「家族みんなで話し合っルールを決める」「大人にアウトメディアを伝える」「考えを共有する」などの声があがっていました。



29日

厚真産ハスカップのデコ巻きずし教室を開催

厚真産ハスカップブランド化推進協議会(下司義之会長)が、総合ケアセンターゆくりで厚真産ハスカップのデコ巻きずし教室を開催しました。

講師に日本デコずし協会北海道支部代表の木村光江さんを招き、厚真産ハスカップを使ったハート型のデコ巻きずしとハスカップそうめんを作りました。

教室には町内のほか札幌市や苫小牧市から23人が参加し、厚真産ハスカップの栄養を効率よく吸収できる食べ合わせを学びながら、楽しく料理していました。



31日

ジャベリックボール投げで 上厚真小の荒井くん(6年)が全道大会初優勝 山崎くん(5年)が8位入賞

7月16・17日に室蘭市で開催された第35回北海道小学生陸上競技大会ジャベリックボール投げに出場した上厚真小学校(西田直校長)の荒井瑠海くん(6年)と山崎煌丞くん(5年)が、宮坂町長を訪問し大会の結果報告を行いました。

ジャベリックボールは、楕円(だえん)形のボールに羽が付いたものです。

大会では、荒井くんが男子6年ジャベリックボール投げで54m94を記録し優勝、山崎くんが男子5年同種目で39m52を記録し8位に入賞しました。

荒井くんは北海道代表選手として8月19日に横浜市で開催される全国大会に出場が決まり、「全国大会に向けて練習して、全道大会より良い記録を出したい」と意気込みを話していました。



宮坂町長を訪れた荒井くん(左)と山崎くん(右)